

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4471200180		
法人名	医療法人 土生医院		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	大分県豊後大野市三重町内田六反2541番地		
自己評価作成日	平成22年8月5日	評価結果市町村受理日	平成22年11月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471200180&amp;SCD=320">http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471200180&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成22年8月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営母体が医療法人なので高齢者に必要な医療が密着しています。</li> <li>・当施設は高台の適度な自然環境の中、文教地区にあります。</li> <li>・人の流れもあり、四季折々の景観の変化の中で季節感をあじわう穏やかな生活が出来ます。</li> <li>・家庭的な手作りの食事を提供するよう努め、又、個別に対応した工夫をしている(キザミ食等)。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法人に併設しているので、健康管理や医療面でのサポート・連携がとれている。</li> <li>・外部評価での気づきをスタッフ全員で話し合い、改善している。</li> <li>・毎月の請求書送付時に、担当者の手紙を同封している。利用料を法人の窓口で支払うシステムなので、毎月必ず家族の訪問があり、家族の意見や要望を聴き話し合い、運営に反映している。</li> </ul>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様がその人らしく生活できる開所時の理念を月1回のミーティングで全職員が振り返る時間を設け日々のケアが適切か検討している。ホール、事務所などに理念を貼り、日々の業務の中で意識できるよう環境作りに取りくんでいる。	具体的な支援内容を理念に組み込んでおり、定例会やミーティングでは理念を掘り下げて話し合いを行っている。特に新任職員に対しては、折に触れ、具体的に意識づけを行い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域のお祭り、チューリップ祭り、秋の文化祭には、今作成中の物を展示参加する予定である。又、保育園児が年数回訪問してくれ、藤華看護学生がボランティアとして活動しにきてくれるなど地域の交流がある。	自治会に加入しており、利用者と一緒に回覧板を届けたり、地区の文化祭には、利用者の作品を出品したり、地域の人と触れ合う機会は多い。幼稚園児の定期的な訪問や、看護学生の受け入れもやっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、事業所での実践内容を踏まえた研修に参加している。藤華医療技術専門学校学生を平成22年6月24日から7月13日まで研修の受け入れを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開いている。参加者は事業所の責任者、市の職員、家族の代表などが出席している。事業所からの意見、要望などを受け双方向的な会議となるよう配慮し日々の業務に活かしている。	運営推進会議では、事業所からの報告とともに、参加メンバーからの質問、意見を受けている。外部評価結果や、明らかになった課題について報告し、意見をもらい、モニター役になってもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に数回、介護サービス事業所を対象にした市主催の研修会に積極的に参加しサービスの質の向上につなげている。市の窓口で介護保険更新手続き、おむつ券の申請などで市職員との意見交換を行い連携を深めている。	市役所が、事業所に近いこともあり、市主催の研修会への参加や、日常的に申請や手続きを行っている。また、相談など協力関係も築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し日々の業務を振り返り利用者様に抑圧感を与えていないか点検している。	定例会で、身体拘束の具体的な行為について勉強会を行っている。日々の関わりの中で、身体拘束にあたる行為や言葉かけなどについて点検し、振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだ高齢者虐待防止法を定例会で報告し理解を深め全職員で虐待防止法に努めている。特に介護の中で虐待にあたるものは何か、具体的に説明している。		

事業者名:グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在までに該当事例はないが、必要時対応できる様に研修会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書を読みながら内容の説明や利用料金医療連携体制、ケアの取り組み等説明し家族の希望、不安などを尋ね納得がいくよう説明し同意を得ようとしている。今年度より在宅総合診療を行う際、家族会で十分説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には食べたい物、買い物、行事の参加等尋ねたり、意見を聞くようにしている。又家族会において、アンケートの働きかけをし意見を聞き、面会時に家族とお話している。利用料請求書の手紙の中で個人ごとに、近況報告等 行っている。	毎月、利用料請求書の送付時に、担当者の手紙を入れたり、家族アンケートを実施している。年2回の家族会や、家族の訪問時には、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見や要望は、ミーティングで話し合い、業務に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、要望はミーティング、定例会で聞くようにしている。又申し送りノートを活用しコミュニケーション、運営に取り入れている。	ミーティング、定例会で職員が意見を出しやすいよう、日頃からコミュニケーションを取っている。昨年の外部評価での気づきを活かし、申し送りノートの工夫をしたことで、情報の共有もできており、職員の意見を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアマネージャー取得の勉強会など資格取得に向けた支援をしている。休憩時間にゆっくり休めて、気分転換できるよう畳張りの休憩室を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修計画を作成し全職員が年間積極的に受講できるよう働きかけている。又研修報告を通じ知識の浸透に努めている。新人職員にはマンツーマンの体制をとり、利用者のケア、関わり方の指導を丁寧に実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分佐尉郷の家へ交流訪問した。施設見学、勤務形態、業務内容、食事内容など意見交換など行った。又H21年10月15日有料老人ホームひまわりで佐尉郷の家副施設長による「認知症の正しい理解」の講演を行いサービスの向上に励んでいる。		

事業者名:グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用が決まればホームに見学に来てもらったり、職員が面接に行き関係作りに努めている。日々の挨拶から始まり、本人の興味ある会話を持ち、言った事に否定しない。又本人より下の位置に立ち見下ろさないよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、これまでの家族の苦労、経緯について聞く機会を持つ様にしている。又不安に思っている事を聞きサービスにつなげていける様に話し合いをしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時家族、本人の思いを聞き、不安除去に努めているが、場合によっては他の施設、ケアマネジャー、などのサービスにつなげるなどの対応をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを職員が理念として共有しており、お膳の並べ方、料理など教えてもらう事も多く。又自分ができる事、お茶碗洗い、床掃除、洗濯たみ等を手伝って頂くことで共に支えあえる関係づくりに留意している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時ホームでの生活の様子を伝え、一緒にお茶を飲んだり季節ごとの衣類の交換、受診の依頼、行事等への参加など伝え協力をお願いしている。家族から本人への贈りものが届いたおりに、電話をいれ本人と話ができるよう努めている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも友人などの面会を勧め、又家族に依頼して美容院等馴染みの店の利用を出来るだけ継続している。居室に飾れる様に家族との写真を一緒にとり関係を大事にしている。	行きつけの美容院に行ったり、法事や盆などの際は、家族が迎えに来て自宅に帰っている。隣接の有料老人ホームに入居中の友人との行き来はあるが、地域に密着したなじみの関係支援は希薄である。	利用者1人ひとりが、今までの生活の延長線上にあり、馴染みの場、馴染みの人々との関係継続ができるよう、積極的にアプローチを行い、支援していくことが望まれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、おやつ時に座る位置を人間関係に応じて配慮し、会話が円滑になるように心がけている。又心身の状態や気分が日々 変化する事もあるので注意深く見守り、入浴中など、個別に話を聞いたり、その時々に合わせて支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後には年賀状など季節の挨拶を出したりしている。退所後病院で亡くなられた方の葬儀、法要にお参りしご家族に挨拶を行い、本人ご家族との関係が続くようにしている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で現在何がしたいのか把握に努め外出希望時は、家族へ連絡をとり、外出することで気分転換を行っている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	日々の関わりの中で、言葉や表情などから把握に努めている。毎回のカンファレンス終了後、「次回は〇〇さんについて」と言っておくことで、職員が意識し、考えながら、日々のケアを意識するきっかけになっている。意思疎通が困難な方は、家族や関係者からも情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族に家族介護状況表に生活歴や馴染みの暮らし方など記入して頂いている。本人自身の語りや家族、親戚等の訪問時などに少しずつ把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタル測定後本人の流れ、体調に合わせ声掛け、ニーズの把握に努め毎日の暮らしを支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で思いや要望を聞き、ミーティングでアセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、2施設合同のカンファレンスを行っている。	本人や家族には、日々の関わりの中で、思いや意見を聞き、サービスに反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で、意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。モニタリングも、定期的を実施し、状況が変化した時はその都度行っている。	設定した期間の見直しはもちろん、本人の状況や変化に応じて臨機応変に見直しをしていくことが必要であるが、新たな要望や状況変化が特にない人も、月に一度は、新鮮な目で見て確認をしていくことが望まれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日常記録(食事量、水分量、排泄、身体状況)本人の言葉、エピソード等、個々のケース記録に職員の気づきや利用者の状態変化を記載している。朝、昼の申し送り時に1日のケアに活かすように職員間で情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当該医療法人主治医による月2回の在宅総合診療(回診)を行っている。又状況に応じて通院、送迎等必要に応じて支援している。本人の訴え、希望を取り入れ、美容院等への付き添いを家族に協力をお願いしている。			

事業者名:グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、民生委員、消防署と連携を取り、協力を依頼している。訪問理美容、おむつ券の活用などの情報を家族にお伝えしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者に主治医が継続している場合を除き、当医療法人で在宅総合診療(回診)を月2回行っている。急変時や体調不良時は随時対応している。又他医療機関の利用の方には、家族より受診時の状態、服薬等の件を詳しくお聞きしている。	月2回、法人の医師が訪問診療している。かかりつけ医の受診は、基本的に家族が同伴している。毎日の生活の様子や状態変化、受診後の情報は事業所と家族で共有ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理、状態変化に応じた支援を行っている。日常の中で些細なことでも看護師に報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は当医院経由で行うため医療機関との早期退院に向け、随時当医院と連携を取りながら、頻りに職員が見舞うようにし状態経過の情報収集に努め、家族とも情報交換しながら退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、当医院医師が家族と面談し、本人や家族の意思を確認している。その方針に従い必要な時には、当医院医師、職員が連携をとり対応している。	看取りの指針を作成しており、本人や家族の意向をふまえ、医師、職員、家族と連携をとり、安心して納得した最後を迎えられるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを整備し周知徹底を図っている。あじさい看護師より、応急処置の仕方を実際に見ながら、質疑応答をし対応できようとしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年、スプリンクラー、火災報知機設置。H. 22年7月12日施設内での防火避難訓練を行う。12月頃消防署対応の防火避難訓練を行う予定。非常用食料、備品を用意している。家族間の緊急連絡網を作成している。	年1回、消防署の避難訓練を実施している。また、事業所内でマニュアルに沿って、利用者とともに避難訓練を行っている。備蓄も完備されている。地域の協力体制については、自治会、運営推進会議で協力を呼びかけている。	

事業者名:グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング、申し送りで理念を振りかえる時間を設けケアに取り組んでいる。又本人の気持ちを大切に考えてわかりやすい声掛け言葉かけをするよう努めている。	人格の尊重やプライバシーを損ねる言葉かけなどについて、日々の関わりの中での言動を具体的に取り上げ確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛けし、難聴の方には筆談で説明し意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、強制しないように支援を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、部屋でテレビを観られたり、休まれたり、又体調不良の場合など食事時間をずらして様子を見たりと身体状況に合わせて支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣は、基本的に本人の希望で決めているが、自分で出来ない方には日頃の好みを考えながら支援している。理美容等は本人の馴染みの店を優先しているが、個々の状況に応じて訪問利用している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況により、普通、キザミ、ミキサー食にし食べてもらっている。食事作り(だんご汁・玉ねぎの皮むき等)、配膳、片付けは利用者とともに行き、同じテーブルを囲んで楽しく食事出来るよう雰囲気づくりをしている。	献立は、法人の栄養士が立てているが、時々利用者の希望を取り入れ変更している。また、調理や片付けも利用者とともにいき、利用者の状態や希望に応じて、食事形態を変えたり、食事の場所や時間をずらすなど、食事が楽しいものになるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量等はバイタル表に記録し全職員が情報を共有している。カロリー面は当医院に相談している。調理面は利用者の好みに応じてつくっている。摂取しやすいようにミキサー、キザミ、粥食で対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い個々の力に応じて手伝いしている。利用者によっては、ガーゼ、スポンジを使用している。就寝前は、義歯の洗浄を行いポリドント液の入ったケースに保管している。			

事業者名: グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレは各居室に設置している。排泄チェック表を利用し尿意のない方もその人のパターンに合わせてトイレ誘導を行い、夜間オムツ使用者も日中は、布パンツ、リハビリパンツにパットを使用。必ずトイレ誘導し快適な排泄の支援を心掛けている	排泄チェック表に基づいて、尿意を訴えなくても、さりげなく誘導している。日中は、オムツや尿取りパッドなどをできるだけ使用せず、夜間のみ使用するなど、それぞれの生活リズムに合わせて排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄時にはバイタル表に記入している。オムツ使用者の方もトイレで排泄できるように支援している排泄時腹部マッサージなどで対応しているが、状況により薬を服用する方もいる。又、季節の果物や、いも類を使ったおやつを出すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日声掛けし、入浴の希望を取り、本人の希望に沿って実施している。尿、便失禁があった場合は、その都度対応している。又夜間入浴も対応している。入浴拒否、入浴不可の方には、無理強いしないようにし、清拭、足浴の支援をしている	入浴日や順番は決めず、毎日午後～夜間まで声かけをし、本人の希望に添って自由な時間に入浴できるよう支援している。また、入浴拒否の場合は無理強いせず、時間を変えて声かけをしたり、清拭や足浴で対応し、保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出、受診、入浴日などは、なるべく早めの就寝を促している。その日の身体状況に応じて午睡を勧めたり個人の状況に合わせて支援している。又眠剤を飲まれている方は、夜間のトイレ誘導、日中の活動の妨げになっていないか確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも内容把握出来る様、処方箋をファイル作成している。服薬の変更、中止は申し送り時職員に伝えている。服薬時、本人と介護職員が共に確認し服用後口腔内に残っていないか確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	もやしのひげ取り、玉ねぎの皮むき、配膳、片付け、ぞうきん掛けなど、利用者に応じて手伝ってもらい、以前の経験を生かしアクリルたわし(毛糸をかぎ針で)をあんだり、和裁をしていた方には、雑巾を体調、時間を見ながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部の利用者が家族訪問時自宅や親せき宅、法事などで外出される事がある。行事、お祭り、の機会を作っているが、日常は、受診、玄関先での日光浴などで外に出られる。又敷地内にできた有料老人ホームに入所されている知人を訪ねることもある。	行きつけの美容院やお店、隣接の有料老人ホームや同法人のグループホームを訪問したり、地域の行事へ参加をしている。また、外出しない時は、前庭でベンチにかけて外気に触れるよう、戸外に出る機会を積極的に作っている。	



事業者名:グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、家族よりお金を預かり、買い物、理美容代など支払出納長に記入、家族訪問時残金の確認サイン、捺印を頂いている。職員が事務室で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、家族等電話対応している。その際子機等を利用したり、事務室の電話機を使いプライバシーの保護を配慮している。利用者に届いた手紙、小包などのお礼を職員が連絡、本人と話ができるようよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式の台所にしている。料理の音、匂いや季節ごとの菖蒲湯、ゆず湯などは利用者の五感や季節感を取り入れ工夫している。玄関、テーブル等に花を飾ったり、掲示板へ月ごとの手作り作品を展示し季節感を出している。節句には人形等飾るなど季節行事も取り入れている。	リビングを中心に、全体が柔らかな色彩で明るく、季節の花や利用者の作品などが置かれている。キッチン是对面式で、食事の準備の音や匂いで五感が刺激される、開放的な設えになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関外にベンチを置き、花壇に植えた花を見たり、外気浴をしたり、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士がゆっくりくつろげるスペースがある。又、ホールにソファ、小さいテーブルを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビを置かれ自由に觀賞される様にしている。使い慣れた小物、椅子などを置き、カレンダーなどで月日の理解を促している。又家族が持って来られた写真を貼り雰囲気作りをしている。入居前に使用していた寝具を一部利用されている。	居室は、使い慣れた椅子やテレビ、なじみの品物が持ち込まれている。持ち込みの少ない利用者には、小さな鉢植えや作品の展示、似顔絵、家族との写真などを貼ったりして、それぞれの利用者の居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に、一人ひとりの花マーク、のれんをつけている。部屋の位置がわからない利用者には、居室前にリボンやマスコットをつけるなどの配慮をしている。ホールには季節を意識して頂くため、手作りの日めくりカレンダーを使用し日々の支援に活かしている。		